

J S Q C 規格の開発・制定に関する提案書

規格の名称	品質管理教育の指針
規格の種類	○ 1. 規格 (JSQC-Std) 2. テクニカルレポート (JSQC-TR)
規格の適用範囲	総合的品質管理 (TQM) の一貫として、組織において行うことが推奨される品質管理教育の内容と方法
規格の利用者	TQMを実践する組織、およびTQMを評価・診断する組織
制定のねらい	<p>TQMの主要な活動要素のうち、日常管理および小集団改善活動については、既に、JSQC規格が制定されており、方針管理およびプロセス保証についてもJSQC規格の開発が進んでいる。</p> <p>他方、これらTQMの実践を支える人材の育成については、日本科学技術連盟、日本規格協会等が特定の人材の育成に焦点を絞ったセミナーを提供しているほかは、規範となるものが少なく、各組織がそれぞれの実情を踏まえて独自の階層別分野別教育体系や教育システムを構築している。そのため、必要な品質管理人材の育成が十分できておらず、結果としてTQMが適切に実践できていないところも見られる。</p> <p>本規格は、TQMを適切に推進するために必要となる、階層別の品質管理教育の内容を明確にする。また、組織の中長期経営計画、並びに要員の品質管理に関する能力評価やTQMの実践状況評価の結果を踏まえて、品質管理教育を計画する・見直す方法を明確にする。</p>
制定によって期待される効果	<p>(1) 品質管理教育として実施すべき内容、計画に当たって考慮すべき事項が明確となり、各々の組織において階層別分野別教育体系や教育システムを整備するのが容易になる。</p> <p>(2) TQMの普及組織が開催している様々なセミナーの位置づけが明確となり、その活用が促進される。</p> <p>(3) QC検定等の資格制度との関係が明確となり、その活用が促進される。</p>
制定によって影響を受けると思われる組織・人	<p>(1) TQMを実践している組織</p> <p>(2) TQMに関する教育セミナーを開催している組織</p> <p>(3) QC検定等、TQMに関係が深い資格制度を運営している組織</p>
制定までのおおよそのスケジュール	<p>(1) 2016年1月～2016年12月 作業原案の作成</p> <p>(2) 2017年1月～2017年4月 審議委員会による審議とパブリックコメント募集</p> <p>(3) 2017年6月 規格の発行</p>
原案作成に当たって参考となる資料	<p>(1) 岩崎日出男 「質を第一とする人材育成」 日本規格協会</p> <p>(2) JOQI 職場第一線の人づくり部会：「職場第一線人づくり・実務ノート」</p> <p>(3) QC検定センター 「品質管理検定レベル表」</p> <p>(4) 日本科学技術連盟 「TQM活動・品質マネジメント活動 ステージアップガイド」</p>
提案委員会・研究会・部会名	日本品質管理学会 標準委員会